

公益財団法人宇都宮市スポーツ振興財団 中期経営計画評価表（平成27年度実績）

平成28年4月1日現在

I 組織の概要

1. 基礎情報

所在地	宇都宮市元今泉5丁目6番18号	設立年月	昭和56年2月	
市所管課	教育委員会事務局 スポーツ振興課	代表者	理事長 渡辺 竹男	
ホームページアドレス	http://www.utsunomiya-sponavi.or.jp			
基本財産（資本金）	10,000千円	主な出資者	出資額	出資割合
		—	—	—
	市出資額	10,000千円	—	—
市出資割合	100.0%	—	—	—
設立目的等	生涯スポーツの推進を図るため、宇都宮市におけるスポーツ振興に関する事業を行い、スポーツ活動の普及、啓発に努め、もって市民の心身の健全な発達と健康で豊かな生活の形成に寄与することを目的とする。			
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民スポーツ活動の普及に関する事業 体育施設の管理運営に関する事業 その他法人の目的を達成するために必要な事業 			
公益目的事業比率 （公益法人のみ）	84.3%			

2. 組織・人員情報

役職員数	役員				職員						
	常勤	理事	うち市OB		正規職員等			嘱託・臨時職員等			
			1	1	正規職員	46	理事との兼務	0	嘱託職員	8	0
		監事	0	0	再雇用職員 (フルタイム)	2	0	再雇用職員 (短時間)	0	0	
非常勤	理事	7	1	派遣等職員	0	0	臨時職員等 (アルバイト等含む)	21	0		
	監事	2	0	市 市以外	0	0					
	計	10	2	計	49	1	計	29	0		
役員の平均年齢（歳）	62.0	役員の平均年収（千円）	—		情報公開制度の有無	0					
職員の平均年齢（歳）	52.7	職員の平均年収（千円）	6,868		個人情報保護体制の有無	0					

3. 財務状況

単位（千円）

【貸借対照表】	27年度決算	備考
資産	619,744	
負債	454,740	
	(うち損失補償等額)	0
純資産	165,004	
	(うち利益剰余金)	155,004

※一般財団等は、純資産を正味財産合計、利益剰余金を一般正味財産として読み替えています。

【損益計算書】	27年度決算	備考
総収入	761,059	
	(うち市補助金等)	219,745
	(うち市委託料等)	378,804
経常損益	5,697	
当期損益	5,697	

※一般財団等は、損益計算書を正味財産増減計算書、経常損益を当期経常増減額、当期損益を当期一般正味財産増減額として読み替えています。

【宇都宮市スポーツ振興財団】

Ⅱ 各項目の取組状況

1. 事業の充実・重点化

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度			
1	公益目的事業比率の維持	31年度 85%	80.0%	84.3%			
2	事業評価の実施及び活用	マネジメントサイクルを活用した改善	実施	→			
3	受託事業の充実	受託事業等 3事業	3事業	→			
4	スポーツ教室の充実	31年度延べ参加者数42,000人	35,014人	41,182人			
5	効果的・効率的な施設の管理	31年度利用者数950,000人	849,457人	967,880人			

2. 地域における公益的活動の推進

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度			
6	スポーツ指導デリバリー事業の充実	31年度 100件	145件	129件			

3. 健全経営の維持と経営の更なる改善

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度			
7 (共)	市からの補助金・負担金の適正化	継続的な見直し	決算額 246,008千円	決算額 219,745千円			
8 (共)	市からの委託料（指定管理料）の適正化	継続的な見直し	決算額 377,930千円	決算額 378,804千円			
9	保有財産の適正化	継続的な見直し	決算額 159,308千円	決算額 165,003千円			
10	自主財源の確保・充実	31年度 自主財源比率16%	15%	18.4%			

4. 組織・人員体制の強化

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度			
11 (共)	常勤役職員数の適正化	継続的な見直し	50人	48人			
12	職員の資質の向上	全職員研修の実施	実施	→			

5. その他

No	取組項目	目標	基準値	実績値			
			H26年度	H27年度			
13	ウェブサイトの充実	スポーツ教室ネット申込、メールマガジンによる情報提供	計画	準備			

Ⅲ 総合評価

団体による 自己評価	<p>【評価】 施設の管理運営については、関東・東北豪雨により河川敷の施設が長期間に渡り利用休止となったものの、宇都宮市体育館の大規模改修工事が完了し、全体的には概ね順調であった。引き続き、定休日の開放や貸出期間及び貸出時間を延長するなど、弾力的な管理運営に努めた。また、スポーツ教室においては、ニーズの高いフィットネス・ダンス系及びジュニア系において、新規または追加コースを開催し、事業拡充に努めるなど、公益財団法人として公益性の高い事業展開を行った。</p> <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・職員の高齢化による組織の硬直化・デリバリー事業等人員体制の不整備による供給ロスの発生・指定管理施設の峻別・保有財産の適正活用
所管課による 評価	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none">・スポーツ教室やデリバリー事業など、公益目的事業において参加者増が見られ、一部講座では追加コースを実施するなど、ニーズに対応した柔軟な事業展開が見られた。特に、市体育館においては、参加者数が大規模改修実施前以上の水準になるなど、サービス向上のための取組による成果が確認できる。・施設の管理運営においては、関東・東北豪雨による河川敷の施設の休止などあったものの、比較的被害の少なかった箇所について補修を行い、一刻も早い復旧に努めるなど、施設利用者の要望に則した対応を行っている。・市体育協会事務局及びスポーツ少年団並びに市民スポーツ大会への事務支援を継続して実施している。・財団ホームページをスマートフォンに対応させるなど、利用者の利便性向上に努めている。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・職員の高齢化や年齢構成のアンバランスを解消し、組織活力を維持向上するため、早期退職者制度の導入の検討や財団のあり方指針の更なる精度の向上を行う必要がある。・職員の退職者数や自主事業の実施状況を見据えながら、管理施設の峻別を行うとともに、将来の財団のあり方を引き続き検討する必要がある。